

ぐるりしよーばら カメラレポート

広島市民球場で笑顔いっぱいダンス こどもミュージカルの公演をPR



「庄原こどもミュージカル」のメンバー103人が、10月22日に庄原市民会館で行われる公演「オズの魔法使い」をPRしようと、8月1日に広島市民球場でカープ応援ダンスを披露しました。

これは、松田オーナーが庄原市カープ応援隊でお世話になっている庄原市に、何か支援ができればと申し出があり実現しました。

対ヤクルト戦の試合前と5回終了後、この日のために新調した赤・オレンジ・黄色のオリジナルTシャツを着てグラウンドに登場。大勢の観客の前で「怪獣のバラード」を元気いっぱいに踊りました。また、池上留以さんがオズの魔法使いの衣装を着て始球式をしました。

踊りを終え、子どもたちは「短い時間だったけど、広い市民球場でもいっきり踊ることができて最高だった。多くの人にミュージカルを見に来てほしい」と笑顔で話していました。



池上留以さんが始球式

ふるさとで、新成人の門出を祝う 平成18年度庄原市成人式



平成18年度庄原市成人式が8月15日、市民会館で行われました。

今年対象となった新成人は、昭和61年4月2日から昭和62年4月1日までに生まれた市内在住者と庄原市出身者で、362人が式典に出席しました。

滝口市長は「社会の一員として何をなすべきか考え、地域の将来を背負って立つ気概を持って成長してほしい」と激励しました。また、新成人を代表し、藤井良太さん(東城町)が「成人になったことの喜びは、同時に“新たな覚悟”の始まりであり、この言葉に鈴をつけ、いつまでも鳴らし続けていきます」と決意を述べました。

式典の後、広島大学名誉教授の西村清巳先生の記念講演「感激のある人生を」や比婆荒神神社の子ども神楽が行われ、新成人の門出を祝いました。式典後の祝賀パーティーでは、それぞれの近況を話しながら、懐かしい友との再会を楽しみました。



藤井良太さんが謝辞

文化財で新しい郷土を発見しよう こども文化財探検隊が古墳など見学

庄原市の自然・歴史・文化のすばらしさを体験する「庄原市こども文化財探検隊」が8月上旬に4日間行われ、小中学生延べ97人が参加しました。

生態系・地質学・考古学・歴史学の4つのテーマで行われ、子どもたちは国指定天然記念物の「熊野の大トチ」や「雄橋」をはじめ、国や県指定の史跡や博物館などを巡り、それぞれの専門の先生から聞いたことや発見したことをノートに書きとめ、自然の成り立ちや古代の生活に想像を膨らませました。

企画した生涯学習課は「庄原市には231件の指定文化財があり、未来を担う子どもたちにとって最高の教材。郷土のすばらしさを感じてほしい」と話していました。

この行事は、宝くじの助成金を受けて実施されました。



雄橋で地質学探検



防犯や環境美化をPR 市役所前で広報活動出発式

地域の安全・安心と環境美化を図るため、庄原自治振興区と同地区公衆衛生推進会が8月8日、市役所前で防犯・環境美化運動広報活動出発式を行いました。

出発式には、区民100人が「防犯・ポイ捨て禁止パトロール」と書かれたそろいのベストを着用し出席したほか、市長や警察署長など関係者約50人が参加しました。永井忠司区長は「この広報活動を通して、区民の防犯と環境美化意識の向上を図り、犯罪のない明るいまちにしていきたい」とあいさつ。出席者が見守る中、広報車が出発しました。

今後、毎月第2・第4火曜日の午前中、市の広報車で啓発活動が行われます。



大竹塾長による講義

日本の明日を担う若きリーダーを養成 次世代を担う高校生のための未来塾

「次世代を担う高校生のための未来塾」が8月1日から4日間、高原の家七塚で行われ、庄原市をはじめ県北の高校生を中心に26人が参加しました。

これは、郷土愛を持つ高校生の中から、広い視野に立ち、大きな構想力と情熱によって日本社会に貢献できる人材を育てたいと、庄原市出身の山口信夫・日本商工会議所会

頭や大竹美喜・国際科学振興財団会長たち県出身の経済人20人が企画し、昨年からはじまりました。

第1線で活躍中の経済人や文化人が講師を務め、ビジネスやコミュニケーション、国際交流などを学びました。最終日は、大竹塾長が「夢は叶う」と題し講義し、夢の実現のためにビジョンを掲げようと訴えました。また、参加した高校生は「私の自己実現」と題し、将来の夢や自分のあるべき姿を発表。「この4日間で自分の考え方が変わった。1日1日を大切に、夢を実現させたい」と話していました。

しあわせ館でそうめん流しを楽しもう

今が青春！世代間交流事業

8月11日、西城保健福祉総合センターしあわせ館で、恒例のそうめん流しイベントが開催されました。これは、しあわせ館で活動している男性の元気づくりグループ「今が青春！」のメンバーが、地域の子もたちと交流を深めようと平成15年から実施しているものです。

この日は好天に恵まれ、約100人の子もたちが集まりました。参加した久保寛明くんは「そうめん流しは楽しいから好き。今日もいっぱい食べたい」と話していました。この日のために、竹を切り出して準備を進めてきた12人のメンバーの皆さんも、子どもたちのいきいきとした表情に触れて充実感を味わっていました。

「今が青春！」は、70代以上の男性を対象に、心身ともに元気で過ごすための機能の維持・向上を目的として、「毎日をわくわく生きて、自分の人生のヒーローになろう」を目標に、月2回の集いで、健康づくりや仲間づくりを行っています。



ヒバゴン丼に学ぶ地域の食と知恵

西城小学校親子でキャリア学習

7月9日、西城小学校3年生の児童23人と保護者が、「ヒバゴン丼」づくりに挑戦しました。ヒバゴン丼は37年前西城町に現れた謎の類人猿にちなんで考案された西城の名物料理。ヒバゴンも食べたいであろう山菜や特産品の山の芋など地元産の食材を使っています。

西城小学校3年生では、地域への理解と愛着を育てる教育の一環として、「大好き！西城～まちのじまんを見つけよう～」というテーマに基づき、地域の「ひと」「もの」「こと」に学ぶ学習を行っています。1学期は、西城三坂地区の農家のお母さんたちが経営する食堂「峠の茶屋まびこ」からヒバゴン丼づくりの達人前田マツ枝さんがゲストティーチャーとして招かれました。

調理方法について説明を受け、数人のグループに分かれて調理をスタート。児童たちは、ふだん保護者とといっしょに台所に立つ機会が少ないこともあって、真剣にそして楽しみながら調理に取り組みました。力を合わせ初めてつくったヒバゴン丼はおいしいと大好評でした。前田マツ枝さんは、「家でもいっしょに料理をして、私たちが昔から食べてきたもの、味、食べ方などを忘れずにいてほしい」と話していました。



伝えたいことを伝えるために…

西城公民館「話し方教室」開催中

あいさつ、朗読、司会など生活のいろいろな場面に役立つ話し方のコツを学ぶ話し方教室が、西城公民館で開催されています。庄原のインストラクター桑原知樹さんを講師に迎えて発声練習と講義、日頃気になる言葉や話し方について疑問を出しあい、一人ひとりの課題について話し合っています。

これまでに数回の教室を終えた参加者からは、「老人会の役員として発表する機会があり、緊張せずに話せるようになった」「言葉や話し方は、その団体や個人の姿勢や考えを表すもの。もっと伝えたいことがちゃんと伝わるような話し方ができるようになりたい」などの感想が聞かれました。

西城公民館話し方教室は、7月から11月までの毎月第1・3火曜日に開催されています。話すこと、聞くことに関心のある方のご参加をお待ちしています。



東城支所ホールで芸術文化を鑑賞

塩原の大山供養田植展



市役所東城支所のホールを活用し、市民の文化意識を向上させようと、7月2日～7日、塩原の大山供養田植展が開催されました。写真のパネル39枚、写真コンテスト入賞作品23点、田植踊りや早乙女の衣装、牛の鞍といった用具が展示されました。

また、7月8日～15日には、絵本『紅玉』原画展が開催され、北海道のりんご園を舞台に、戦争中強制連行されてきた朝鮮や中国の人々とのふれあいを描いている『紅玉』の原画など油絵20点を展示されました。初日は、訪れた約70人の人々を前に、絵本画家の高田三郎さんが「痛みを残す戦争をしてはいけない」と語りました。

ホール活用事業実行委員会の近藤芳弘委員長は「供養田植展は、なぜ国の指定になっているのか写真などで感じてほしかった。今後も芸術文化の鑑賞の機会を増やしていきたい」と話していました。

次回は、パッチワーク展が10月28日～11月5日まで、コンサートが10月29日に行われます。

源流でたくましい口和っ子の育成

川遊びの楽しさを体験



「口和の子元気か？気持ち良く汗を流しているか？ところで川で遊んだ事あるか？」をテーマに、青少年育成庄原市民会議口和支部が7月30日、柄松川で「川と遊ぼう」を実施しました。

大人と子ども合わせて約40人が参加し、ドロバエを釣ったり、川の中に入って魚を捕ったりしました。また、焚き火をしてヤマメの塩焼きや、薪を使い羽釜でヤマメご飯を炊いて、河川敷で食べました。

源流での川遊びに子どもたちは「オオサンショウウオがいてびっくりした。ヤマメご飯が美味しかった」と話し、夏休みの楽しい思い出になりました。

もぎたて"夢のコーン"

トウモロコシ畑で生産者と消費者が交流

8月1日から3日までの3日間、西城前油木営農組合のトウモロコシ畑に、県内各地の消費者255人が家族連れで訪れ、トウモロコシのもぎとり体験が行われました。

前油木営農組合のトウモロコシは、生鮮便やゆうパック、生協などのネットワークを通して各地に届けられ好評を得ています。この催しは、産地見学を通して消費者と生産者が交流と理解を深めるために行われており、今年で5回目となります。

おいしいトウモロコシの見分け方や上手なもぎとりのコツについて説明を受けた参加者はいっせいにトウモロコシ畑へ。生でかじっても甘い"夢のコーン"の新鮮な味に歓声をあげながら収穫を楽しみ、休校中の油木小学校で、地元の生産加工グループ「ゆうき市」の皆さんの手づくり弁当と焼きトウモロコシの昼食をとりました。

営農組合長の高原芳典さんは、「つくり手にとってはおいしいと言われることが一番の励みになる。消費者に産地のことを知ってもらい、意見を聞けるのがうれしい」と話していました。





夏の吾妻山で自然とのふれあい 吾妻山グリーンラリーに15チーム

8月8日、吾妻山グリーンラリーが開催され、58人が参加しました。

今年で18回目を迎えた「グリーンラリー」は、吾妻山の大自然の中を木々や草花の名前を調べながらハイキングし、自然とのふれあいを深めてもらうため、毎年8月8日(葉っぱの日)に行われています。

比和文化会館で木々や草花の学習をした後、バスで吾妻山に移動し、休暇村吾妻山をスタート地点として「ゆったりコース」と「がんばりコース」に分かれ、チームごとに出発。「がんばりコース」は、休暇村から吾妻山山頂を経てキャンプ場までのコースで、15のチェックポイントがあり、木々や草花の図鑑を参考に名前を記入しながら、ゴールを目指しました。

参加者は、「暑くて疲れたけど、景色が素晴らしかった」「木々や草花のことがわかって良かった」「また吾妻山に登ってみたい」と話していました。

ゲートボールを通じて親睦と交流を深める かさべるで杯に県内外から66チームが参加



7月23日、比和総合運動公園で「庄原市比和かさべるで杯親善ゲートボール大会」が開催されました。今年で11回目を数えるこの大会は、自然豊かな比和でゲートボールを通じて親睦を深めるとともに、参加者の体力づくりや健康増進を目的としています。

梅雨空ではありましたが、県外を含め66チーム約400人が参加し、熱戦が繰り広げられました。毎年、参加を楽しみにされている常連チームも多く、参加者は1つ1つのプレーに一喜一憂しながら、夏の1日を楽しんでいました。

また、会場では、地元の特産市や商工会のメンバーが特産品などの販売を行い参加者との交流を深めました。



料理の楽しさを学ぶ 夏休み子ども料理教室

夏休み子ども料理教室が、8月2日に総領健康福祉センターで行われ、総領の小学生21人が参加しました。

子どもたちに料理の楽しさと食べることに関心を持ってもらうと、市と総領食生活改善推進員が企画。保健師から夏バテしないためのポイントを聞き、ブラックライト

を使って上手に手洗いができているか確認した後、4グループに分かれて調理実習がはじまりました。

参加した子どもたちは、食生活改善推進員や子育て推進員に教えてもらいながら、野菜を切ったり、鍋の中身が焦げないようにき混ぜたり、約2時間かけてマヨカレーチャーハン、ビーフンスープ、豆腐餃子と牛乳かんの4品の料理を完成させました。

献立の中に含まれる栄養素の話聞きながら、「また家で作ろうね」と出来上がった料理を参加者全員でおいしく食べました。

スポーツや料理で世代間交流 田森地区で合宿交流会



餃子づくりを楽しむ子どもたち

東城の田森公民館が青少年の健全育成と世代間交流を図ろうと、7月21日～23日の3日間、「田森まるごと元気村」を開催し、田森地区の子どもたち22人と地域住民がスポーツや料理などを通して親睦を深めました。

粟田小学校で開村式を行い、子どもたちと地域の高齢者・教員約60人でグラウンドゴルフを楽しみました。夕食は地域の方から寄せられた夏野菜を使い、一緒にカレーライスを作りました。2日目は、田森保育所での保育体験、餃子作りなどをしました。餃子は皮から手作りし「餃子の皮がまるくならない」と苦労していました。3日目は、しまね海洋館アควアスでイルカやアシカなどを見学して合宿を締めくくりました。

田辺恒治館長は、「少子高齢化が進む厳しい環境ですが、この合宿交流会が、地域の元気づくりに役立てば幸い」と話していました。

7月23日、東城地域から神石高原町にまたがる帝釈峡で「夏の湖水まつり」が開催されました。

満水になった神龍湖に龍船が登場し、湖畔崩落事故以来、運休になっていた遊覧船が新しい棧橋から出航しました。水源郷コンサートでは、ギター、バイオリン、ヴィオラが奏でるクラシックやタンゴなどの音楽が、深緑の渓谷に響き渡りました。

また、雄大な自然を守ろうと、帝釈地区で「きれいきれいキャンペーン」が行われました。雨の中多くの方が清掃作業を行い、清掃後にはグラウンドゴルフを楽しみました。

満水の神龍湖に龍船が走る 帝釈峡夏の湖水まつり



全身泥だらけでボールを追いかける 高野納涼どろんこバレーボール大会

第3回高野納涼どろんこバレーボール大会が8月8日、新市の休耕田で開催されました。

新市自治振興区の青年会が高野町で誰もやったことがないことをしようと、3年前に企画。職場グループや青年会などで構成した5チーム約50人が参加しました。

ぬかるむ田んぼの中で、思うように体が動かず珍プレーが続出。試合が白熱するにつれ、ダイビングを披露し、泥だらけになった顔を見合わせは笑いがこぼれました。試合が終わると、選手は一斉に近くの川に飛び込み、汗と泥を流しながら涼を楽しんでいました。スタッフは「来年はもっと広く参加を呼びかけ、選手も観客も泥だらけになって楽しみたい」と話していました。

